

ひまわり

宮崎社会保険病院
病院長 石川 正

宮崎市大坪西1-2-1
TEL.0985(51)7575
FAX.0985(53)8821

迎春

新年明けましておめでとうございます。

先生方におかれましては、つつがなく新しい年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

昨年は、宮崎社会保険病院をご利用いただき厚くお礼申し上げます。

特に、地域医療連携室につきましては、おかげさまで、モットーであります「地域医療機関の先生方に気軽にご利用いただける開かれた地域医療連携室」が定着してまいりました。

これも偏に先生方のご理解とご協力の賜物と深く感謝し、重ねてお礼申し上げます。

今年は、「地域医療支援病院」の認定を受けることを新たな目標としております。そのため、患者様の逆紹介を積極的に推進していこうと考えておりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、先生方の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成18年元旦

地域医療連携室長(副院長) 白尾 一定

ご紹介します！ 社会保険病院の診療科

今回は、

透析室

です。



今回は透析室の紹介をさせていただきます。

各施設及び開業医の先生方には、日頃より患者様のご紹介及びお受け入れをいただきまして誠にありがとうございます。

当院の透析室は1976年7月から業務開始し、2002年10月からは透析台を21→31台(内5台は個人機)に増床するとともにセントラルシステムを導入し現在に至っています。月水金は昼間・夜間の2クールで、火木土は昼間のみ透析を行っています。おおよそ外来：入院＝2：1の割合です。現在、透析担当医師は常勤3名です。その他、火曜・金曜の昼間、及び月曜・金曜の夜間にそれぞれ大学病院から非常勤医師として4名の先生方に透析回診をしていただいています。また桑畑浩美科長以下20名のスタッフが日々の透析業務にあたっています。

常勤医師をご紹介します。

まず、松本充峰医師は、平成10年に宮崎医科大学を卒業し、大学病院勤務・大学院卒業後、平成17年6月より当院に勤務しております。

大学院では腎炎のアドレノメジュリンについて研究していました。

次に、川崎由香医師は、平成8年に宮崎医科大学を卒業し、古賀総合病院・千代田病院・県立日南病院などを経て平成17年4月より当院に勤務しております。今までの担当症例数も多く臨床経験豊富です。

最後に、透析室の責任者をしております私、稲垣浩子は平成6年に宮崎医科大学を卒業し、大学病院・県立延岡病院・古賀総合病院などの勤務を経て、平成17年6月より当院に透析部長として赴任致しました(当院勤務は2回目です)。

専門は3名とも同様で、一般内科及び腎臓内科・透析医療(腎移植含む)などです。比較的中堅?医師が固まっており、全員が手術可能な状況です。手術については通常の内シャント・動脈表在化・人工血管植え込み手術・シャントトラブルに対応しています。週3回手術枠がありますので比較的順調に手術予定を組める状況です。透析は当番制など主な仕事は分担

しており、常にお互いの患者様を把握し検討しながら日々の診療を行っております。腹膜透析外来も2週に1回行っています。腎移植希望の方の窓口にもなりたくて考えていますが腎移植に関する特殊外来は行っておりません。ご希望の方がいらっしゃれば、ある程度のお話とご案内は出来ると思いますのでご連絡いただけましたら幸いです。平成16年度(平成16年4月～平成17年3月)の実績は、シャント手術；46例、血液透析導入；30例、腹膜透析導入；2例、腎生検；6例です。

以上のように、平成17年4～6月から透析担当医師が全員入れ替わった形となり、しばらくの間、患者様や連携の先生方にもご不安があったかと思われそうですが、今までのシステムを崩すことなく、さらに積極的にいろいろな合併症を有する患者様にも対応ができますよう、フットワーク軽く努力していきたいと存じます。

今後とも、患者様ご紹介・ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

10月、11月の 実施状況

10月

(10月20日実施)

- ・ Emergency Free Flapとしての腹直筋皮弁の有用性
- ・ 当院で経験した内科症例について
- ・ 宮崎社会保険病院 外科紹介
- ・ 2005年前期における大腸・直腸症例について
- ・ 乳がんの画像診断

11月

(11月17日実施)

- ・ 指尖部再接着後の血行不全例の腹部埋め込みによるレスキュー
- ・ 2005年前期における肺症例について
- ・ 宮崎社会保険病院 内科紹介
- ・ 当院でのIABP(大動脈内バルーンパンピング)の使用経験～救命できなかった症例と救命できた症例～
- ・ 当院における橈骨遠位端骨折の治療について

症例検討会へどうぞ

● 今後の予定 ●

2・3・4月

2月16日(木)

3月23日(木)

4月20日(木)

地域医療を 支える



院長 弘野修一

地域医療連携について思うこと

2005年1月の午後、初老の男性が2日前より断続的に続く胸痛が強くなったと顔をしかめながら外来にやってきた。本人は胸焼けというが、締め付けるような前胸部痛と左肩痛がある。これは胸焼けではない。すぐに心電図検査をすると心筋梗塞の所見であった。開業以来4年でほんの数回しか救急車のお世話になっていないのんびりした診療所にも緊張が走った。幸い消防署は目と鼻の先の距離である。すぐに救急車の手配をして、社会保険病院内科に電話をし、手短かに状況を説明すると「すぐにいらしてください」との返事。救急車に同乗して10分で病院に着いたが、受診から搬送終了まで約30分であった。病院の前では先生方が待機してくれていた。夕刻主治医の先生から電話があり、冠動脈の閉塞部にPTCA（経皮経管冠状動脈形成術）を行い経過は良好との事であった。

このような事例もふくめ、2001年10月に開院以来、当院から社会保険病院に検査依頼あるいは入院・治療目的で紹介した件数は年ごとに増えてきている。

(右下の表)

市内にはいくつも病院があるが、専門的医療を必要とする場合、どの病院にお願いするかいつも迷ってしまう。標榜科だけで判断して患者さんをお願いしても、その後返事をもらえなかったり、治療が期待はずれであったりということもある。これは患者さんにとって最も大きな問題であるし、患者さんに病院を紹介する場合、その病院の正確な情報を提供する上でかかりつけ医の責任は大きい。このことは病院から診療所に患者さんを逆紹介する場合も同じである。患者さんを中心とした継続性のある医療を行うには、「顔の見える病診連携」が必要となる。たとえばあの病院はどのような疾患が専門であるの

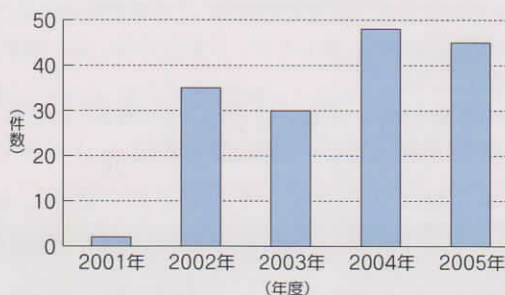
ひろの内科クリニック

〒880-0925 宮崎市本郷北方字山崎3582-1
TEL 0985-52-7311
FAX 0985-52-7312

か（必ずしも専門医がいるという意味ではない）、あるいは病院側からみると治療内容・経過報告などがどの程度紹介元から期待されているのか明らかであれば、病診連携はスムーズに行くと思う。もちろん患者さんはかかりつけ医にも入院中の治療内容や経過を知っていて欲しいと思うであろう。このようなことから最近ではかかりつけ医が随時入院先の患者さんを訪ね、病院の主治医と共同して診療にあたるという開放型病棟を併設する取り組みも見られるようになった。

宮崎社会保険病院では定期的に症例検討会を開いており、それには院内の職員はもちろん、地域の開業医や消防署の救急隊員も参加している。私もこれに出席させていただき病院の取り組み方、各科の専門性がよくわかり助かっている。今後は我々開業医がもっと積極的に症例の相談などを持ちかけることが、この症例検討会を介して地域医療連携をより密にするのに必要であろう。

ひろの内科クリニックから社会保険病院への紹介数



宮崎社会保険病院 外来担当医一覧表

診療科	診療	曜日				
		月	火	水	木	金
内科	新患	渡邊 玲子	松本 充峰	松尾 剛志	西 桂子	平山 直輝
		稲垣 浩子	松尾 剛志	高木 信雄	平山 直輝	川崎 由香
	再来	平山 直輝	石川 正	石川 正	石川 正	松尾 剛志
		高木 信雄	稲垣 浩子	渡邊 玲子	渡邊 玲子	稲垣 浩子
			平山 直輝	川崎 由香	川崎 由香	松本 充峰
			今村 卓郎	北村 和雄		渡邊 玲子
	特殊再来(午後)			高木 信雄	高木 信雄	稲垣 浩子
外科		白尾 一定	貴島 文雄	白尾 一定	秦 洋一	貴島 文雄
	乳腺・甲状腺外来(午前)					白尾 一定
	ストーマ外来(午後)	貴島 文雄 (第1、3月曜)				
	NST外来(午後)			白尾 一定 (第3水曜は除く)		
形成外科	第1 診察室	大安 剛裕	伊木 秀郎	大安 剛裕	高橋 国宏	大安 剛裕
	第2 診察室	伊木 秀郎	岡 潔	高橋 国宏	岡 潔	伊木 秀郎
整形外科	第1 診察室	本部 浩一		本部 浩一	福嶋秀一郎	本部 浩一
	第2 診察室	江夏 剛	有住 裕一	弓削 七重	江夏 剛	有住 裕一
	初 診	弓削 七重	本部 浩一	江夏 剛	有住 裕一	福嶋秀一郎
放射線科		杜若 陽祐 結城 康弘	杜若 陽祐 結城 康弘	杜若 陽祐 結城 康弘	杜若 陽祐	杜若 陽祐 結城 康弘
プライマリーケア(午後)		川崎 由香 (西 桂子)	稲垣 浩子 (平山直輝)	渡邊 玲子 (松本 充峰)	松本 充峰 (渡邊 玲子)	西 桂子 (川崎 由香)

*都合により変更になる場合があります。

(平成18年1月5日現在)

受付時間 8:30~17:15 (但し、急患・紹介患者はこの限りではありません)

編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年は大変お世話になりました。2005年を振り返りつつ、新たな年を迎え、それぞれの抱負を胸にする頃かと思えます。

私事ではありますが、連携室を担当して2年目を迎えることとなります。1年目は、自分に任せられた仕事をこなしていくことにただ必死になっていましたが、これからは、広い視野と余裕を持ち、少しでも多くのことにチャレンジしていければと思っています。

連携室の活動も幅広いものにしていこうと考えておりますので、ご要望等ありましたらご連絡いただければと思います。2006年もどうぞよろしく願い致します。

ご意見・お問い合わせ

宮崎社会保険病院 地域医療連携室

TEL.0120-855-082 FAX.0120-855-083

(地域医療連携室長:白尾一定 専任担当:立山奈月)